

1. 略歴

2001 年 3 月	神戸大学法学部法律学科卒業
2001 年 4 月	京都大学大学院人間・環境学研究科環境関連専攻博士前期課程入学
2003 年 3 月	同修了
2003 年 4 月	京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻博士後期課程進学
2007 年 3 月	同 研究指導認定退学
2007 年 7 月	移住労働者と連帯する全国ネットワーク専従事務局員（～2009 年 3 月）
2009 年 4 月	日本学術振興会特別研究員（PD）（～2011 年 9 月）
2010 年 3 月	博士（人間・環境学）学位取得
2011 年 10 月	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授（～2016 年 9 月）
2016 年 10 月	大阪大学大学院人間科学研究科准教授
2021 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

『追放と抵抗のポリティクス』ナカニシヤ出版、2017 年、272 頁

(2) 編著

『移民政策とは何か』人文書院、2019 年、256 頁

(3) 学術論文

「公共性論の限界と可能性——ハンナ・アーレントを導きとして」『現代社会理論研究』14 号、2004 年：25-35

「『無国籍者』の政治と権利——非正規移民を思考するために」『人間・環境学』14 号、2005 年：41-52

“Multiculturalism in Japan: A Victory over Assimilationism or Subjection to Neo-Liberalism?” 『立命館言語文化研究』18 巻 3 号、2007 年：45-57

「『つながり』を生きる——非正規移民支援活動を手がかりとして」『フォーラム現代社会学』6 号、2007 年：80-92

「脱国民化された対抗的公共圏の基盤——非正規滞在移住労働者支援労働組合の試みから——」『社会学評論』60 巻 1 号、2009 年：124-140

「脱出のプロセスのなかで——日本人の子どもを養育する非正規滞在女性にとっての在留特別許可——」近藤・塩原・鈴木編著『非正規滞在者と在留特別許可-移住者たちの過去・現在・未来』日本評論社、2010 年：111-127

「家族・ジェンダーからみる在日外国人——2000 年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44 号、2011 年：11-25（大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人共著）

「『親密圏』の構築——在日フィリピン人女性支援 NGO を事例として」『社会学評論』62 巻 4 号、2012 年：554-570

「2005 年国勢調査からみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居」『文化共生学研究』12 号、2013 年：39-63（高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致共著）

「1995 年国勢調査にみる在日外国人の結婚と仕事・住居」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』36 号、2013 年：59-80（高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子共著）

「追放と包摂の社会学——1950 年代朝鮮人の在留特別許可をめぐる」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』11 号、2014 年：2-9

「家族・ジェンダーからみる在日外国人——1980・85 年国勢調査データ分析」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』38 号、2014 年：57-76（高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子共著）

「1990 年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居」『文化共生学研究』13 号、2014 年：97-114（高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子共著）

“Making Irregular Migrants Insecure in Japan,” Jiyoung Song and Alistair D.B. Cook eds., *Irregular Migration and Human Security in East Asia*, Routledge, 2015, 23-37

「近代家族の臨界としての日本型国際結婚」大澤編『岩波講座現代 9 身体と親密圏の変容』岩波書店、2015 年：211-237

「2010 年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居」『文化共生学研究』14 号、2015 年：89-107（高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子共著）

- 「現代日本におけるジェンダー構造と国際結婚女性のシティズンシップ」安里編『親密圏の労働と国際移動』京都大学学術出版会、2018年：49-78
- 「『外国人労働者』から『不法滞在者』へ——1980年代以降の日本における非正規滞在者をめぐるカテゴリーの変遷とその帰結」『社会学評論』68巻4号、2018年：531-848
- 「なぜ移民政策が確立されないのか——日本における移民をめぐる政治とリベラル・トリレンマ」『理論と動態』10号、2018年：58-77
- 「『剥き出しの生』への縮減に抗して——非正規移民の生の保障をめぐる人権と人道」『現代思想』47巻5号、2019年：59-67
- 「現代日本における移民の編入様式——家族を通じた分岐とジェンダー構造」『大原社会問題研究所雑誌』729号、2019年：65-89
- 「移民と貧困をめぐる日本的構図——誰がなぜ貧困に陥るのか」『貧困研究』23号、2020年：55-67（樋口直人・高谷幸・稲葉奈々子共著）
- 「現代日本における移住女性の配置の変容と社会的再生産の困難」『思想』1152号、2020年：122-139
- 「時間への関与と現代日本におけるメンバーシップの境界」『対抗言論』2号、2021年：344-352
- 「移民・多様性・民主主義——誰による、誰にとっての多文化共生か」岩渕功一編著『多様性との対話』青弓社、2021年：68-92

(4) 学会・研究会発表

- 「日本における非正規滞在者（移民）の排除と脱出」関東社会学会例会、2010年2月27日、駒澤大学
- “How Do the Care Roles of Migrant Women Change After International Divorce?” *International Conference, Transacted Intimacy: Political Economy of International Marriages in Asia*, Asia Research Institute, 2010. 10. 11, National University of Singapore, Singapore
- “Relationship between Labor Force Participation and Marital Status of Female Migrants in Japan,” *ISA RC06 (CFR) Seminar on “Reconstruction of Intimate and Public Spheres in a Global Perspective,”* 2011. 9. 13, Kyoto University, Kyoto
- 「批判的移民理論のために——シティズンシップ・ジェンダー・境界——」第84回日本社会学会大会・一般報告、2011年9月17日、関西大学
- “Filipino Wives in Japan Serving as Mediators in Transnational Civil Societies,” *IUAES Inter-Congress 2014*, 2014. 5. 16, Makuhari Messe, Japan
- “Citizenship of Long-Term Migrant Filipino Women in Japan: Impacts of Positions in Japanese Families,” *XVIII ISA World Congress of Sociology*, 2014. 7. 17, Pacifico Yokohama, Japan
- “Making Irregular Migrants Vulnerable: A Tangle of Biopolitics and Morals in Japan” *XVIII ISA World Congress of Sociology*, 2014. 7. 19, Pacifico Yokohama, Japan
- 「国勢調査にみる在日コリアンの社会経済的地位の動態——(3) 家族の変容」第87回日本社会学会大会・一般報告、2014年11月22日、神戸大学
- 「ポストナショナルな社会的連帯の想像力——非正規滞在者権利運動の事例分析」第88回日本社会学会大会・一般報告、2015年9月19日、早稲田大学
- 「在日フィリピン人女性のトランスナショナルな市民社会への参加」多文化関係学会第14回年次大会・学際シンポジウム話題提供者、2015年11月15日、岡山大学
- 「ジェンダー化された編入様式：(2) 家族を通じた分岐」関東社会学会第65回大会・一般報告、2017年6月3日、日本大学
- “Why hasn’t Japan Established the Official Migration Policy?,” *KUBEC Symposium (Kobe University Brussels European Centre Symposium)*, 2017. 11. 21, Vrije Universiteit Brussel
- 「現代日本における移民の編入様式——家族・ジェンダー・市場」第90回日本社会学会大会・一般報告、2017年11月4日、東京大学
- 「現代日本におけるフィリピン母子世帯の現状」第3回日韓ひとり親研究会、2017年12月10日、ヒューライツ大阪
- 「なぜ移民政策が確立されないのか？：現代日本における移民をめぐる政治とリベラル・トリレンマ」大阪大学人間科学セミナー、2018年4月19日、大阪大学
- “Complexities of the experiences and negotiations of their belongings of migrant Filipino women married to Japanese men,” *ISA World Congress of Sociology*, 2018. 7. 21, Toronto, Canada
- 「外国人労働者受け入れ拡大・2019は政策転換なのか」緊急シンポジウム「ここがおかしい、日本の移民政策」、2019年2月11日、上智大学

- “Gendered modes of incorporation and belonging of migrant women with intermarriage status in Japan,” *Seminar on UOB*, 2019. 2. 26, University of Birmingham, Birmingham, UK.
- “Backgrounds of the absence an official migration policy in Japan,” *DIJ Symposium, "The politics of migration in Japan,"* 2019. 9. 17, ドイツ日本研究所 (DIJ), Japan
- 「日本における移民の編入様式 1980-2015 (2) ジェンダーからみる就業の変化」第 92 回日本社会学会大会・一般報告、2019 年 10 月 5 日、東京女子大学
- “Citizenship as Responses to “The Force of Domesticity”: A case of Filipino Marriage Migrants in Japan,” *NODE symposium*, 2019. 12. 3, Waseda University, Japan
- 「移民の帰属にかんする理論」第 93 回日本社会学会大会・一般報告、2020 年 11 月 1 日、オンライン
- “A Place of belonging or experiencing domination?: Negotiating making a "home" for migrant women with intermarriage status in Japan,” *IV ISA Forum of Sociology*, 2021, 2. 26, Online

(5) 翻訳

- Nagata, Mary Louise (2002). “Leaving the Village for Labor Migration in Early Modern Japan” (「第 5 章 直系家族システムにおける労働移動：濃尾と東北との比較」)、落合編著『徳川日本のライフコース——歴史人口学との対話』2006 年、ミネルヴァ書房: 141-182
- Danièle Bélanger and Tran Giang Linh, with Le Bach Duong and Khuat Thu Hong (2009). “From Farmers’ Daughters to Foreign Wives: Marriage, Migration and Gender in the Sending Communities of Vietnam” (「第 8 章 農家の娘から外国人妻へ——ベトナムの移民送出コミュニティにおける結婚・移住・ジェンダー」)、落合・赤枝編『アジア女性と親密性の労働』2012 年、京都大学学術出版会：201-230

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

京都女子大学現代社会学部 (2006 年～2007 年度後期)

徳島大学総合科学部 (2008 年度後期)

立教大学社会学部 (2009 年度後期)

(2) 学会

日本社会学会

関西社会学会

関東社会学会

International Sociological Association

社会理論・動態研究所所員

カルチュラル・スタディーズ学会